

(1) 定期会合

会員相互の情報提供や意見交換を活発に行い、参加各社のビジネスに繋げる

- 自社紹介や意見交換・議論に十分な時間を割く
 - ✓ **自社紹介**
新規加入会員による自社紹介や、各社での取り組みの紹介を通じ、会員同士の交流を図る。
 - ✓ **話題提供や意見交換・議論**
昨今のビジネス課題を中心としたテーマ設定や、気象ビジネス関連の話題提供を元に、気象データの活用可能性や気象ビジネスの関わりなどについて意見交換・議論を行う。
- WG会合を定期的を開催する
 - ✓ 約3か月に1回のペースで年に3~4回開催
 - ✓ 対面とオンラインのハイブリッド開催を検討（2023年度にも実施）

(2) 普及啓発

気象ビジネスの裾野を広げ、交流を促す活動に取り組む

- 気象データのビジネス活用セミナー
 - ✓ 人材育成WGと共同企画し、気象データの活用事例を通じた普及啓発を促進する。
 - ✓ 前年度に引き続きオンライン開催とし、全国からの参加を可能とする。

<次ページへつづく>

(2) 普及啓発 <つづき>

- 気象データの利活用事例集の拡充
 - ✓ WXBCホームページ上に、利活用事例に関するインタビュー記事を掲載（令和5年度から）
企業の課題や分析方法、効果など、現場のリアルな声に重点を置いて紹介。
<https://www.wxbc.jp/exampleandinterview/>

- 法人会員のサービス紹介
 - ✓ WXBCホームページ上で、法人会員が自社サービスを紹介するページを運営（令和5年度から）
気象情報の提供や分析、気象データを活用したビジネスなどを掲載する。
サービス提供企業ホームページへの遷移を促す造りとする事で、ユーザ企業とのマッチングも促進
<https://www.wxbc.jp/memberserviceintroduction/>

- 他機関との連携
 - ✓ 他機関主催イベントを活用した情報発信を行う。
 - ✓ 他機関との共催によるセミナー等イベントの開催も視野に入れる。

→普及啓発全体を通して、気象データ利用ガイド（令和5年度作成）の更新にも貢献